

平成22年度実施分 協働事業評価審査(総評まとめ)

2011.6.17

NO	団体名	事業担当課	事業名	総評まとめ
1	根木内歴史公園サポーター (根っ子の会)	公園緑地課	皆でつくる根木内歴史公園Ⅲ事業	千葉大との協働が加わり、地域や学校を巻き込んだ素晴らしい活動です。 また、きちんと役割分担ができていて、提案団体と担当課との協働事業のモデル的な事業です。
2	常盤平地域活性隊	常盤平支所	世代間交流の場・トキ塾	色々な市内のNPOを巻き込む多彩な組み合わせが面白いと思いました。 参加者の年齢層的に難しいものもあり、結果的に世代間交流ができなかったので、三世代交流の促進と改善に期待します。 担当課との情報共有化を一層図って進めて欲しいと思います。
3	NPO法人成年後見センター しぐなるあいず	介護支援課・障害福祉課	市民後見人養成事業(Ⅲ)	松戸市として成果が見えづらかったものが、市民が先行して取り組んだことで、効果が見られました。 この事業の今後の取り組みとして、社会福祉協議会と連携をする仕組みを検討し、この成果を活かして欲しいと思います。
4	NPO法人外国人の子どものための勉強会	市民環境本部 企画管理室 国際交流担当室	外国人の子ども支援事業	現実を捉えている取り組みであり、課題の出し方、見落とされがちなものを捕らえる事業にしたことに共感しました。 次のステップとして学校教育の分野において教育委員会との連携を深めて欲しいと思います。
5	特定非営利活動法人サイエンスシャワー	生涯学習本部 企画管理室	キッズイノベーション事業	学校関係者との連携が一層深まったことは評価したいと思います。 先生の仕事を増やすのではなく、先生の教授法を変えるチャンスにして欲しいと思いました。 企業との連携は事業担当課が経済部につなげて商工会議所の工業部会と連絡を取って欲しいと思います。
6	特定非営利活動法人松戸子育てさぼーとハーモニー	子育て支援課	松戸子育て情報サイト「まつどあ」ホームページの管理運営事業	団体と市が対等な関係性を築くことができた協働事業の一つの発展形であり、また時代のニーズにあった成功事例であり、評価できます。 行政の情報は網羅されているので、民間の事業にも目を向けて発信して欲しいと思います。 事業担当課は、WEBサイト、親子DE広場など、各々で完結するのではなく、子育て支援関連のものを上手くつなげて連携するように、事業の設計をして欲しいと思います。
7	松戸市認定社会教育団体やよい会	高齢者福祉課	シニア交流センターにおける生涯学習実施事業	当初は交流センターの立地場所が悪く人が来てもらえないところから始まった事業ですが、講座の内容を充実させる目標を団体と担当課が共有して成果を挙げた点が協働したことのメリットです。場所の問題を越えて、企画の内容が来る人の心をつかんだということは、他の団体も学ぶべき点だと思います。

NO	団体名	事業担当課	事業名	総評まとめ
8	アースコン・マツド	環境計画課減CO2担当室	地球にやさしい行動宣言推進事業	市民と行政との長い付き合いの中で形が完成され、お互いの役割分担で取り組み成果を挙げている点は評価できる事業です。今後は「行動宣言」から直接CO2削減に結びつく具体的な活動へ移行して欲しいと思いました。啓発の次のステップに期待します。
9	ケア&ファーム	障害福祉課・農政課	障害者団体等の農業体験事業	おしつけでなく、障害者も健常者も交流できる点が貴重だと思います。周りの人(地権者、農家、福祉施設)との協力、連携、支援が必要であり、「里山」の関係性を応用することも一考かと思いました。そのためには、農政課につなぎ役として、また関係性を作るための条件設定などに期待します。
10	特定非営利活動法人こばていー子ども参画イニシアティブ	青少年課	ユースボランティア育成を通じた、子ども会・子ども地域活動の担い手支援モデル事業	子ども会が衰退していく中で、いままでの子ども会と違った取り組みで担い手を増やしていることを評価します。大学、児童文化学や保育の学生等、ユースボランティアへ繋がられる若い力に期待します。
11	松戸子育てフェスティバル実行委員会	子育て支援課	子育て支援ネットワークづくり事業	行政との協働を契機にして、多様なネットワークづくりができた点は評価できます。来場者の増加、協賛者の増加が成果です。最初、官民が協同する形から協働となり、自立に繋がった素晴らしい事業です。
12	特定非営利活動法人人材パワーアップセンター	保健福祉課	「楽しい健康体操」推進活動事業	団体だけでは参加者が集まらなかったが、市と協働したことで集客を上げることができたことと、地域の人材発掘ができたことは評価します。健康体操は人気がありますが、事業担当課にとってのメリットが疑問です。協働事業ではなく、市民活動助成制度の活用や民間スポンサーと組むことができる事業だと思います。
13	特定非営利活動法人運転免許取得支援センター	障害福祉課	福祉作業所に通う利用者の収入アップのための講習会事業	福祉作業所の収入アップの着想は良かったと思いますが、作業所のニーズをしっかりと把握していたか疑問が残ります。福祉作業所の収入がアップしても利用者の収入アップには直接つながらないことが課題です。
14	特定非営利活動法人子育て支援ぼこら	女性センター	父親のための育児手帳作成事業	父親のための育児手帳を作るという発想が面白いと思いました。しかし、育児への関心を喚起するものなのか、関心のある父親の行動を補助する情報提供なのか、目的が分かりにくいと思いました。手帳を作って終わりとならないよう、今後の手帳の使い方に期待します。